

(仮称) 長崎市 地域コミュニティ推進  
計画策定に係るアンケート調査  
報告書〔概要版〕

長崎市

令和2年2月

# 目次

## I 調査概要

### 1 調査概要

(1) 調査目的	1
(2) 調査対象	1
(3) 調査方法	1
(4) 回収状況	1
(5) 調査期間	1
(6) 調査主体	1
(7) 報告書の見方	1
(8) [参考]アンケート回収数の信頼性について	1

## II 調査結果(共通調査項目)

1. 属性	3
(1) 年齢	3
(2) 職業	3
(3) 同居者	3
(4) 居住区域	4
2. 日常生活について	
問5 あなたは、現在、日々の生活の中で、何か悩みや不安に感じることはありますか。	5
問6 あなたは、生活上の悩みや不安を主に誰(どこ)に相談していますか。	5
問7 あなたは、日々の生活に必要な情報を誰(どこ)から入手していますか。	6
3. 地域での生活について	
問8 「地域での支え合い」の「地域」とは、あなたにとって概ねどの程度の範囲ですか。	6
問9 あなたは、現在、どの程度「ご近所づきあい」をしていますか。	7
問10 あなたは、どの程度の「ご近所づきあい」を理想としますか。	7
問11 あなたは、生活の中で、となり近所の人に手助けや協力をしてほしいと思うことはありますか。	9
問12 あなたは、となり近所の人に対して手助けしたり、協力できることはありますか。	9
4. 地域活動について	
問13(1) 長崎市では、現在、次のような団体が各地域で活動しています。 あなたは、これらの活動に参加していますか。	12
問13(2) [(1)で、11. 以前参加していたが、現在は参加していない、 12. 参加していないと答えた方にお聞きします]その理由は何ですか。	13
問14 あなたは、今後、次のような地域での活動に参加したいと思いますか。	12
問15 どのような環境や条件があれば、地域の活動に参加しやすいと思いますか。	13
5. お住まいの地域について	
問16(1) あなたは、お住まいの地域に愛着がありますか。	14
問16(2) [(1)で、1. 愛着がある、2. どちらかという愛着がある、と答えた方にお聞きします] その理由は何ですか。	14
問17 あなたが住んでいる地域には、どのような問題や課題がありますか。	15
問18 問17のような問題や課題の中で、優先して解決に力を入れていくべきことはどれだと思いますか。 (1)地域として、優先すべきだと思うことについて、お答えください。	16
(2)行政として、優先すべきだと思うことについて、お答えください。	16
問19 あなたは、この「地域コミュニティ連絡協議会」について知っていますか。	18

## I. 調查概要

# Ⅰ. 調査概要

## (1) 調査目的

令和3年度を初年度とする地域福祉計画を包含した(仮称)地域コミュニティ推進計画の策定にあたり、複雑化・複合化している地域課題や地域コミュニティに対する市民の考え等を把握、分析し、その結果を計画に反映させるための基礎資料とすることを目的とする。

## (2) 調査対象

18歳以上の長崎市民 2,000人 (無作為抽出)

## (3) 調査方法

郵送方式(配布、回収ともに郵送で実施)

## (4) 回収状況

回収数 944人 回収率 47.2%

## (5) 調査期間

令和元年12月1日~12月27日(27日間)

## (6) 調査主体

長崎市企画財政部地域コミュニティ推進室

## (7) 報告書の見方

ア 比率は百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の計が100%にならない場合がある。

イ 基数となる実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。

ウ 1人の回答者が複数回答を行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。

エ 図表中には、回答者数が非常に少ない場合がある。このような場合には、回答比率の数字が動きやすく、厳密な比較をすることが難しいので、回答の傾向を見る程度になる。

オ 図表の各項目は表示の関係上省略して表示する場合がある。

## (8) [参考] アンケート回収数の信頼性について

アンケート票数と誤差との関係は、当然アンケート票数が少ないと誤差は大きく、アンケート票数が高いと誤差は少なくなる。しかし、統計学的にその関係は一定ではなく、一定の数を超えると、票数を大幅に増やしても誤差はほとんど変わらなくなる。

統計学的には、この「一定の数」は、通常、信頼率：95%、目標誤差：3~5%以内であれば良いとされており、それを下記の計算式で逆算すると概ね400~1,100票程度と算出される。つまり、今回の有効回答票の回収数は、対象者の意向の把握として十分信頼できる数字であるといえる。

$$\sigma = k \sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

M : 母集団                      n : 有効回答数                      p : 結果の比率  
 k : 信頼率による定数                      σ : 標本誤差  
 ※ k は信頼率を決めると自動的に決まる定数で、信頼率に対応する標準正規分布の % 点である。信頼率は、統計的な慣習として 95% とすることが多く、信頼率 95% ならば k は 1.96 となる。

但し、全体把握の場合において有効という意味であり、詳しくは各設問の対象となる母数をもとにサンプル数が決まるため、付問等により回答数が少なくなった場合は参考程度にとどめておく必要がある。※母集団におけるサンプル数については下表を参照。

母集団の人数	要求精度10%	要求精度5%	要求精度5%	母集団の人数	要求精度10%	要求精度5%	要求精度5%
	信頼率95%	信頼率95%	信頼率99%		信頼率95%	信頼率95%	信頼率99%
10人	10人	10人	10人	3,000人	94人	341人	544人
100人	50人	80人	88人	5,000人	95人	357人	586人
500人	81人	218人	286人	10,000人	96人	370人	623人
1,000人	88人	278人	400人	15,000人	96人	375人	636人
1,500人	91人	306人	461人	100,000人	96人	383人	660人
2,000人	92人	323人	499人	1,000,000人	97人	384人	664人
2,500人	93人	334人	525人	10,000,000人	97人	385人	664人



## II. 調查結果

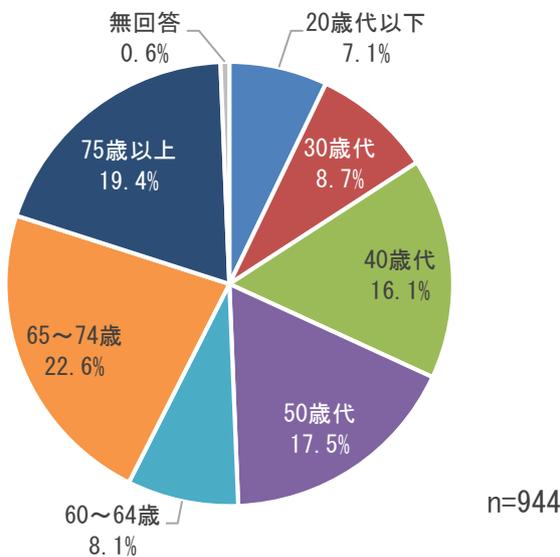
# 1. 属性

回答者の属性のうち年齢は「65～74歳」が22.6%で最も多く、次いで「75歳以上」が19.4%、「50歳代」が17.5%と続いており、50歳以上が約7割を占めている。

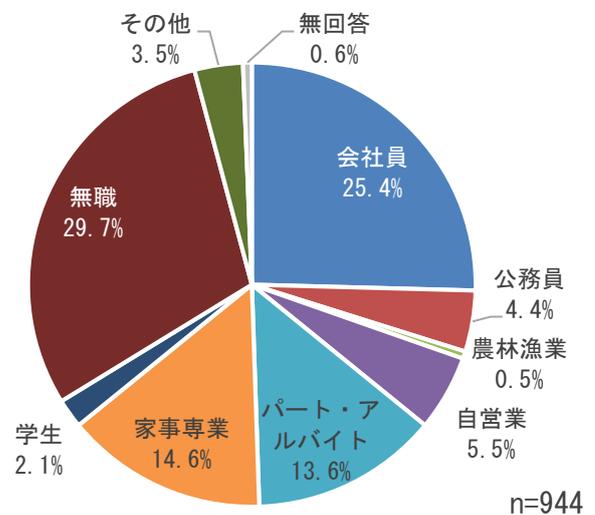
また、職業は「無職」が29.7%で最も多く、次いで「会社員」が25.4%、「家事専業」が14.6%で続いている。

同居者は「配偶者」が63.6%で最も多く、次いで「子ども」が40.4%、「父母」が15.8%と続き、これを世帯構成で区分すると「二世帯世帯」が46.6%で最も多く、次いで「夫婦のみ」が29.4%、「一人暮らし」が14.2%、「三世帯世帯」が5.9%、「その他」が3.4%となっている。

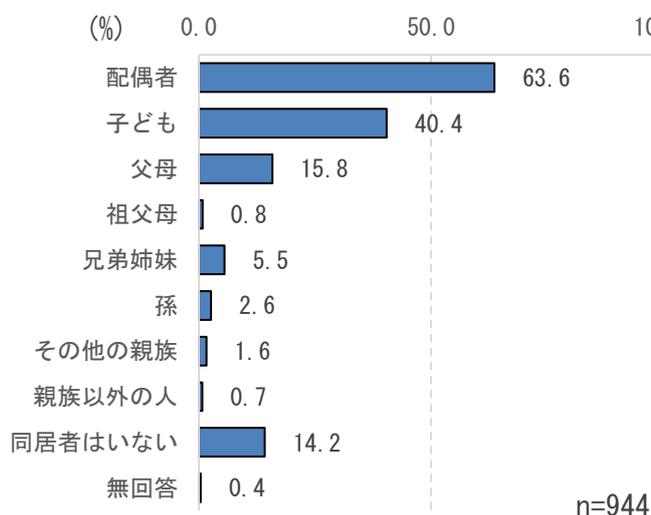
(1) 年齢



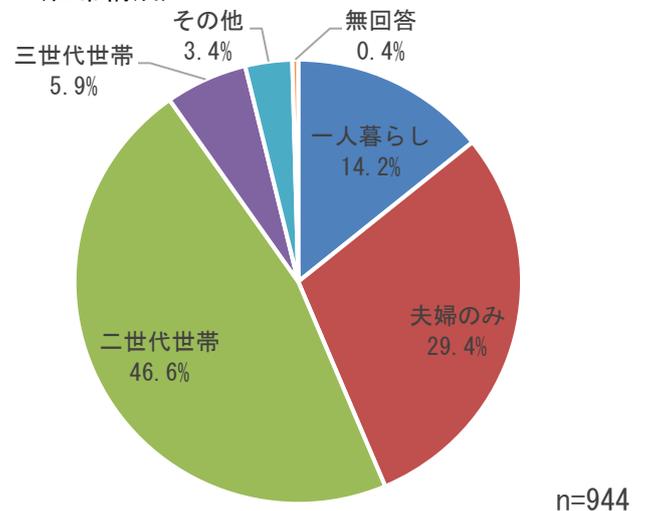
(2) 職業



(3) 同居者

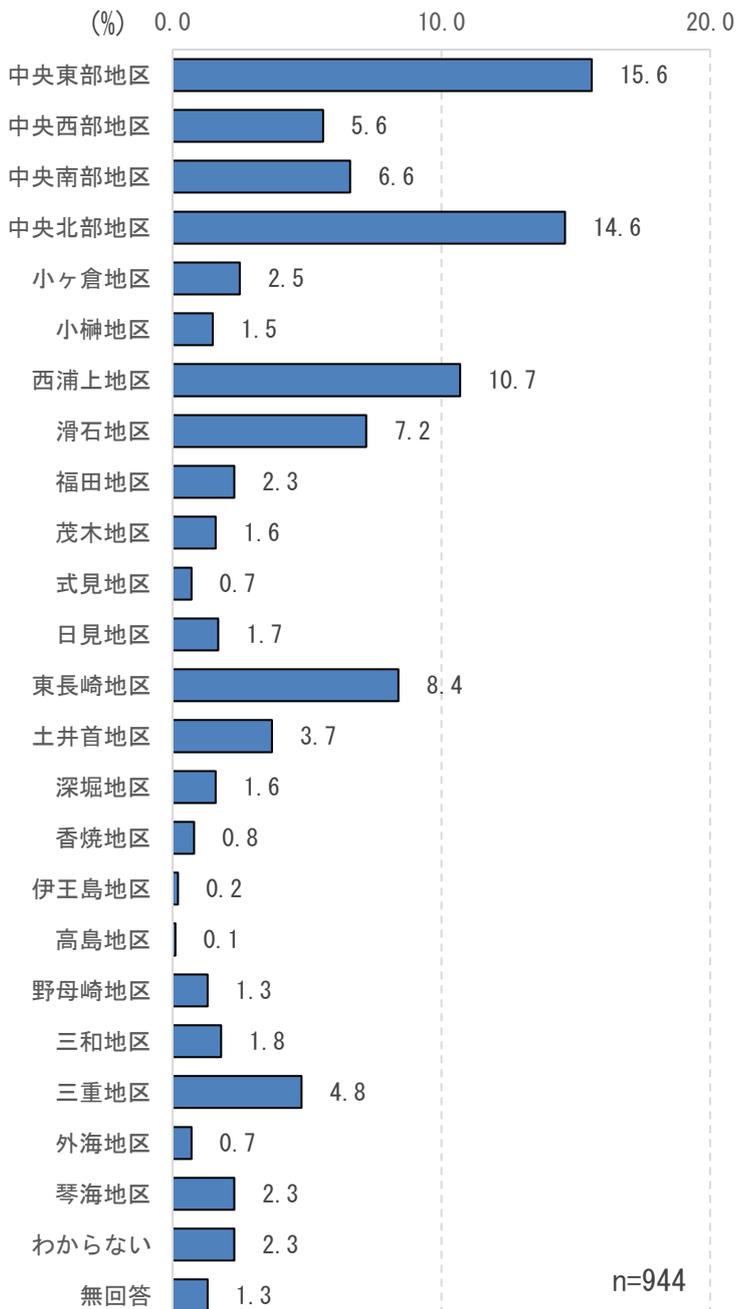


(世帯構成)



回答者の属性のうち居住区域は「中央東部地区」が15.6%で最も多く、次いで「中央北部地区」が14.6%、「西浦上地区」が10.7%と続いており、区域の回答割合と区域の人口比はほぼ一致している。

(4) 居住区域

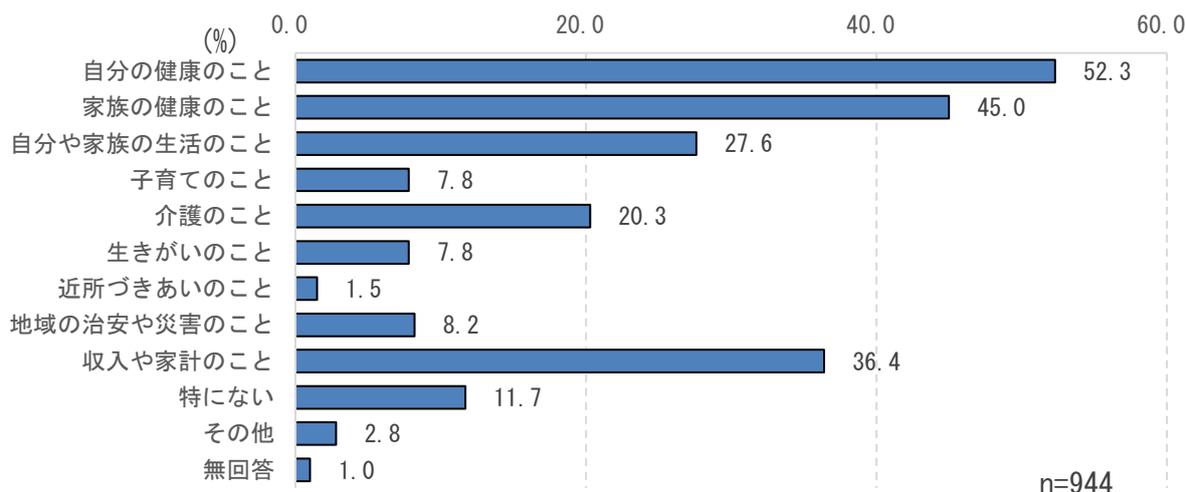


カテゴリ	総合事務所 所管区域	[参考] 地域別 人口 H30・12・31時点	人口 比率	
中央東部地区	中央	57,893	16.1	
中央西部地区		19,248	5.3	
中央南部地区		29,863	8.3	
中央北部地区		54,027	15.0	
小ヶ倉地区		7,543	2.1	
小榊地区		5,999	1.7	
西浦上地区		40,869	11.3	
滑石地区		26,327	7.3	
福田地区		7,973	2.2	
茂木地区		5,381	1.5	
式見地区		2,701	0.7	
日見地区		東	6,687	1.9
東長崎地区			30,815	8.5
土井首地区		南	13,073	3.6
深堀地区	4,843		1.3	
香焼地区	3,122		0.9	
伊王島地区	626		0.2	
高島地区	333		0.1	
野母崎地区	4,757		1.3	
三和地区	北	8,879	2.5	
三重地区		15,892	4.4	
外海地区		3,261	0.9	
琴海地区	10,575	2.9		
合計		360,687	100.0	

## 2. 日常生活について

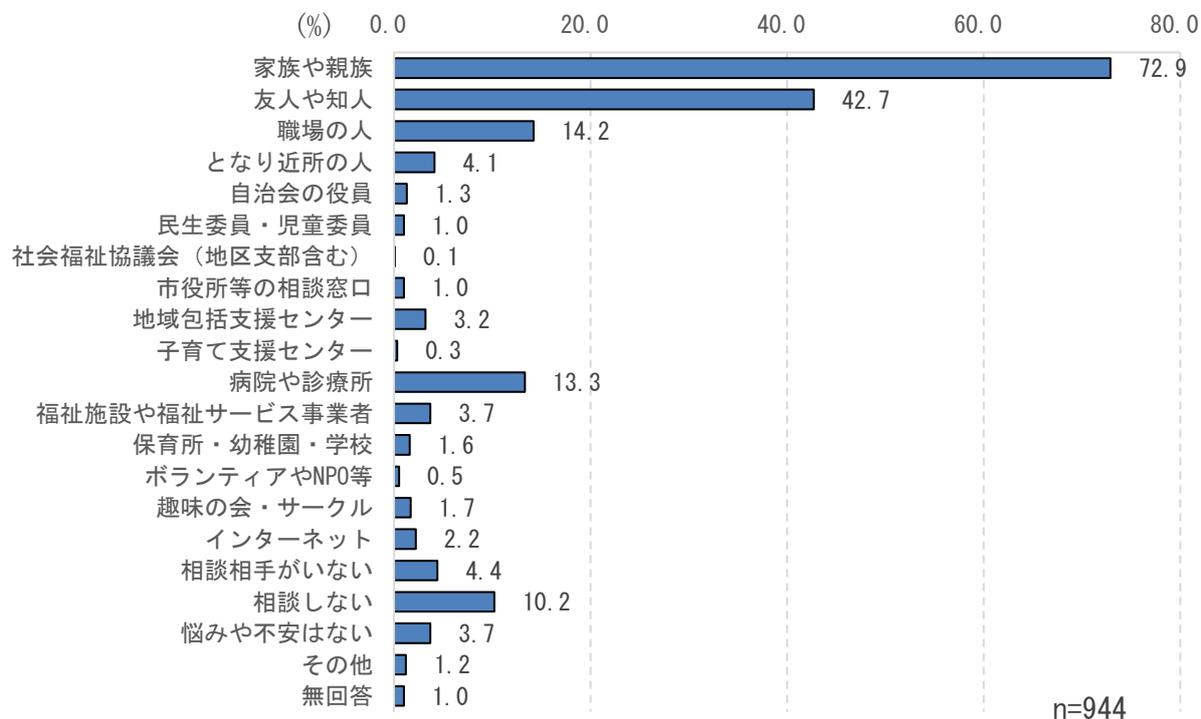
問5 あなたは、現在、日々の生活の中で、何か悩みや不安に感じることはありますか。  
【〇はあてはまるもの3つまで】

日々の生活の中の悩みや不安は「自分の健康のこと」が52.3%で最も多く、次いで「家族の健康のこと」が45.0%、「収入や家計のこと」が36.4%と続いている。



問6 あなたは、生活上の悩みや不安を主に誰（どこ）に相談していますか。  
【〇はあてはまるものすべて】

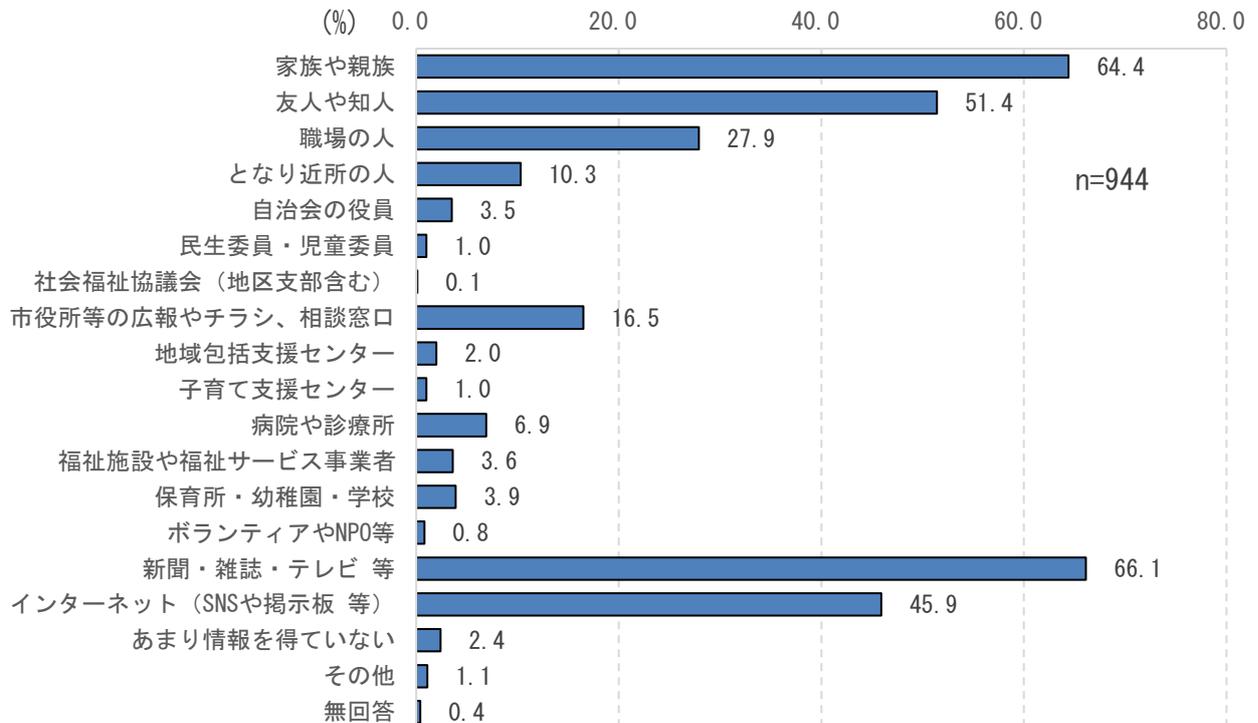
日々の生活の中の悩みや不安の相談相手は「家族や親族」が72.9%で最も多く、次いで「友人や知人」が42.7%、「職場の人」が14.2%と続いている一方、「相談相手がない」が4.4%、「相談しない」が10.2%となっている。



問7 あなたは、日々の生活に必要な情報を誰（どこ）から入手していますか。

【〇はあてはまるものすべて】

日々の生活に必要な情報の入手方法は「新聞・雑誌・テレビ等」が66.1%で最も多く、次いで「家族や親族」が64.4%、「友人や知人」が51.4%と続いている一方、「あまり情報を得ていない」が2.4%となっている。

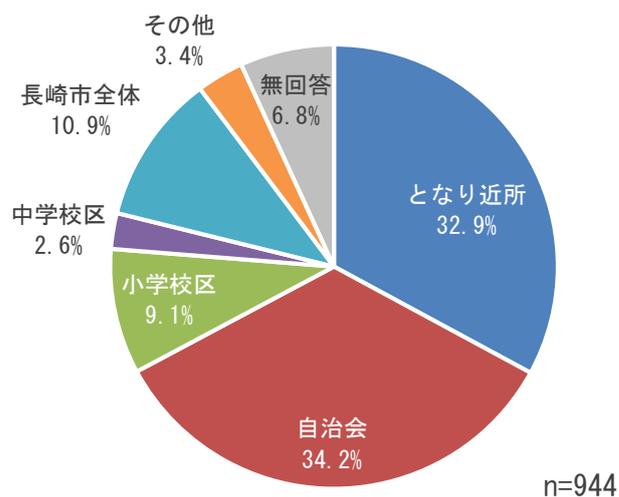


### 3. 地域での生活について

問8 「地域での支え合い」の「地域」とは、あなたにとって概ねどの程度の範囲ですか。

【〇は1つだけ】

全体では「自治会」が34.2%で最も多く、次いで「となり近所（10世帯程度の身近な集まり）」が32.9%、「長崎市全体」が10.9%が続いている。

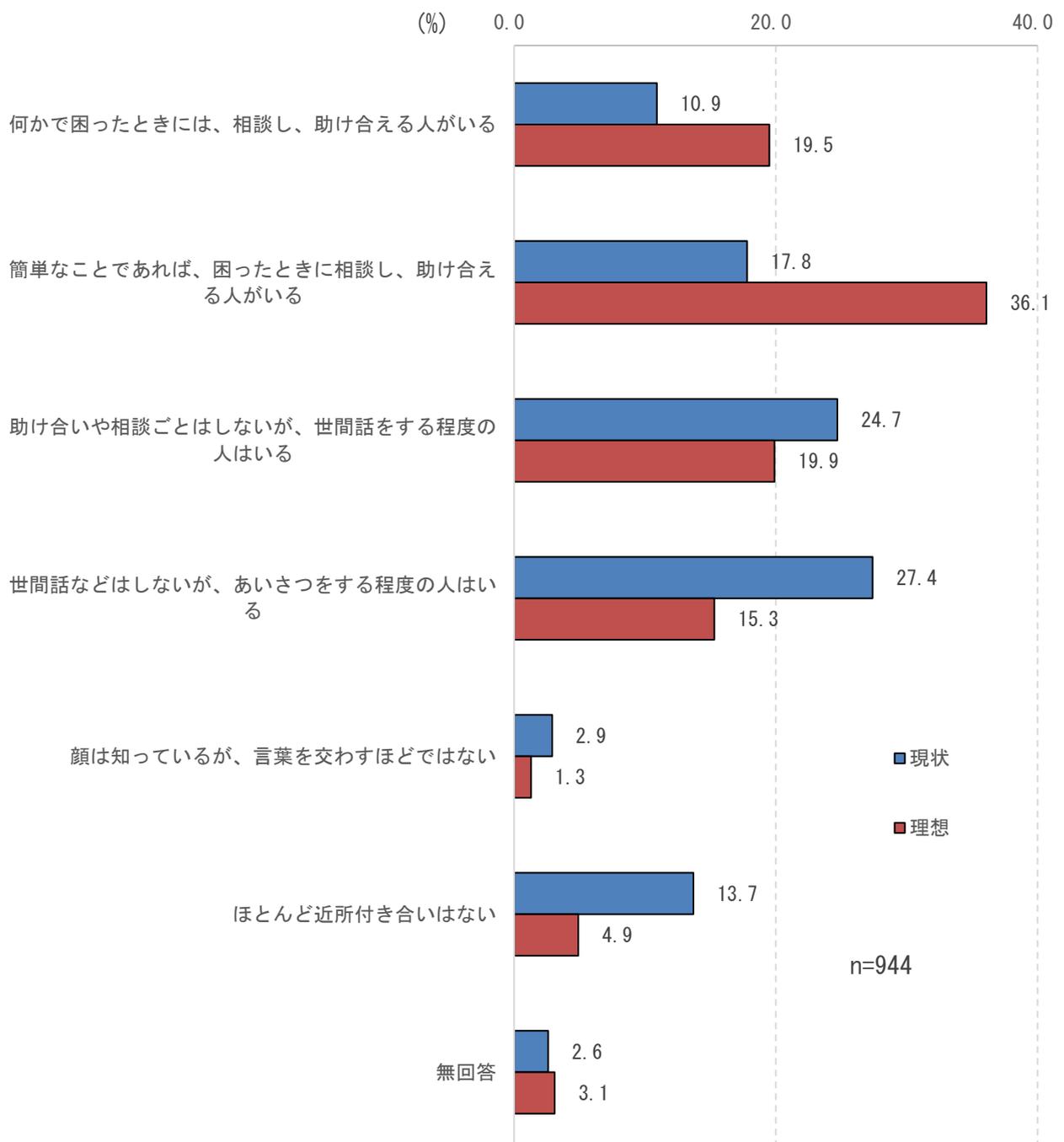


問9 あなたは、現在、どの程度「ご近所づきあい」をしていますか。【〇は1つだけ】

現状としては、全体で「世間話などはしないが、あいさつをする程度の人はいる」が27.4%で最も多く、次いで「助け合いや相談ごとはしないが、世間話をする程度の人はいる」が24.7%、「簡単なことであれば、困ったときに相談し、助け合える人がある」が17.8%で続いており、「近所づきあいがある（「何かで困ったときには、相談し、助け合える人がある」+「簡単なことであれば、困ったときに相談し、助け合える人がある」）」は28.7%であった。

問10 あなたは、どの程度の「ご近所づきあい」を理想としますか。【〇は1つだけ】

理想としては、全体で「簡単なことであれば、困ったときに相談し、助け合える人がある」が36.1%で最も多く、次いで「助け合いや相談ごとはしないが、世間話をする程度の人はいる」が19.9%、「何かで困ったときには、相談し、助け合える人がある」が19.5%で続いており、「近所づきあいがある（「何かで困ったときには、相談し、助け合える人がある」+「簡単なことであれば、困ったときに相談し、助け合える人がある」）」は55.6%であった。

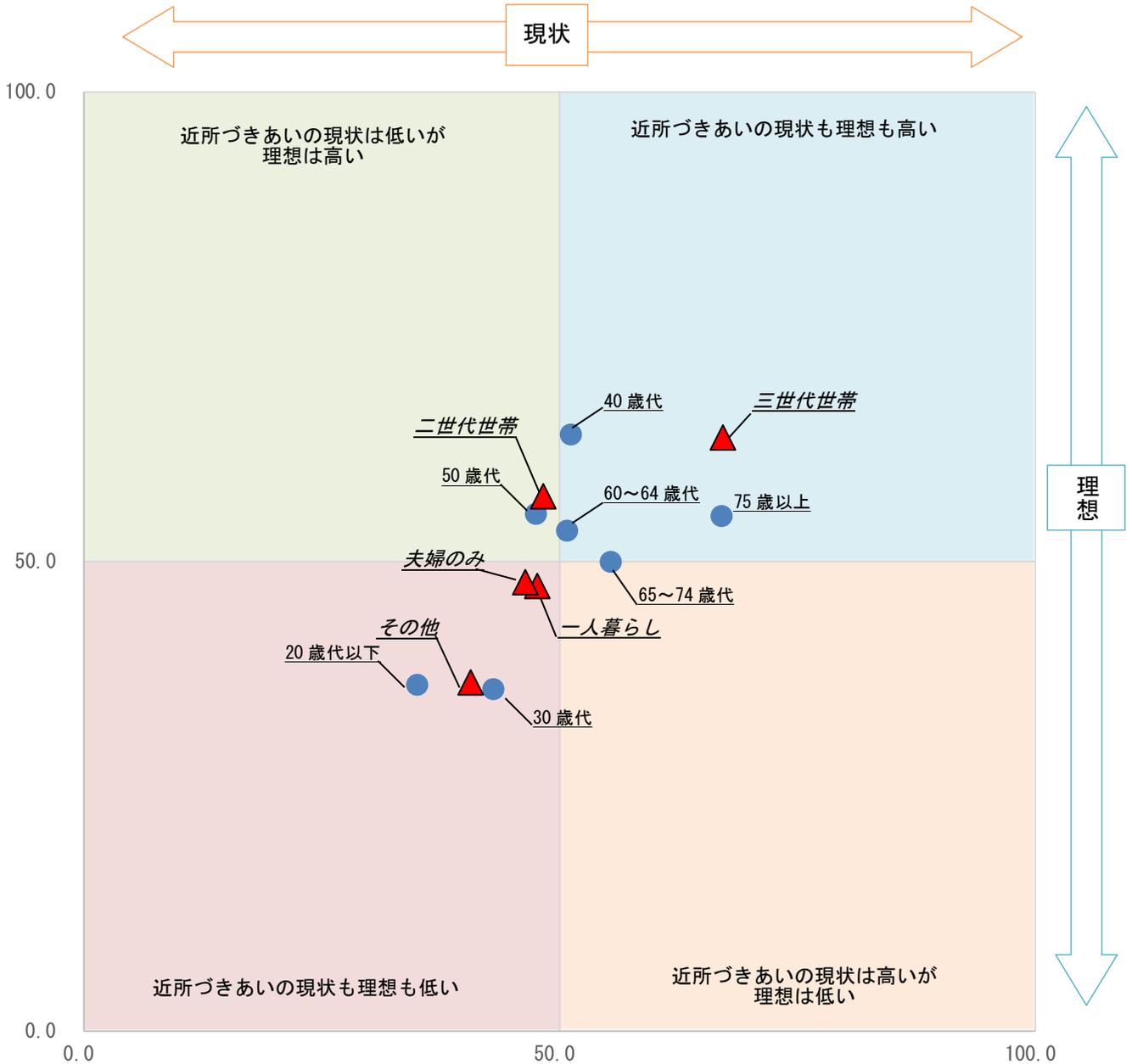


【近所づきあいの現状と理想】

[年代別・世帯構成]

「近所づき合いがある」の現状と理想を偏差値にて図に表すと下記のとおりとなった。年代別で「近所づき合いの現状も理想も低い」分野に「20歳代以下」「30歳代」が入り、世帯構成では「一人暮らし」「夫婦のみ」が入っている。

※近所づき合いがある＝「何かで困ったときには、相談し、助け合える人がいる」＋「簡単なことであれば、困ったときに相談し、助け合える人がいる」で算出している。

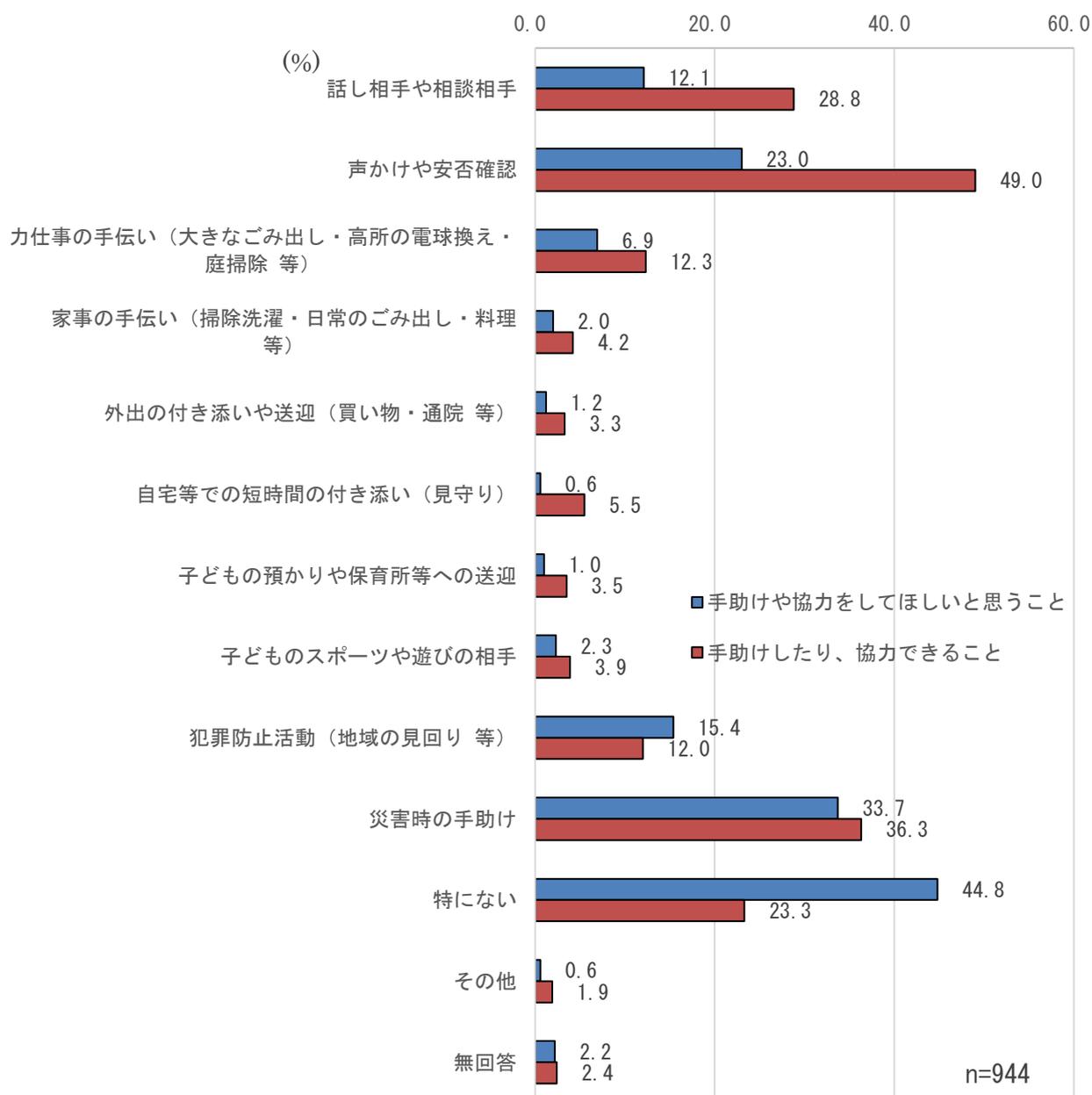


問11 あなたは、生活の中で、となり近所の人に手助けや協力をしてほしいと思うことはありますか。【〇はあてはまるものすべて】

生活の中で、となり近所の人に手助けや協力をしてほしいと思うことは、「災害時の手助け」が33.7%で最も多く、次いで「声かけや安否確認」が23.0%、「犯罪防止活動（地域の見回り等）」が15.4%と続いている一方、「特にない」が44.8%と最も多くなっている。

問12 あなたは、となり近所の人に対して手助けしたり、協力できることはありますか。【〇はあてはまるものすべて】

となり近所の人に対して手助けしたり、協力できることは「声かけや安否確認」が49.0%で最も多く、次いで「災害時の手助け」が36.3%、「話し相手や相談相手」が28.8%と続いている一方、「特にない」は23.3%となっている。

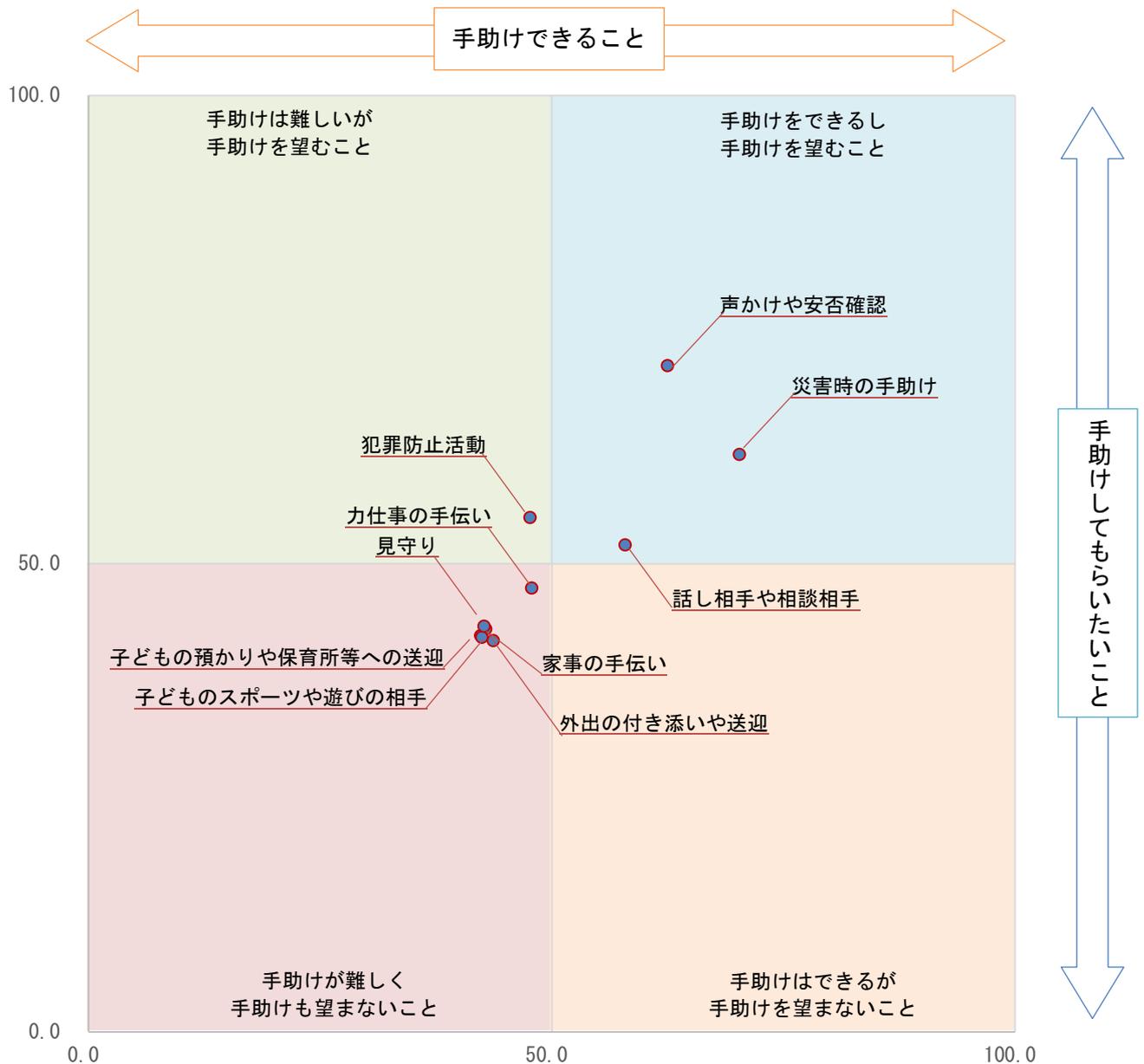


【手助けしてもらいたいこと・できること】

手助けしてもらいたいこと・できることを「その他」「特になし」を除き偏差値にて図に表すと下記のとおりとなった。「手助けをできるし手助けを望むこと」分野に「話し相手や相談相手」「声かけや安否確認」「災害時の手助け」が入り、「手助けが難しく手助けも望まないこと」では「力仕事の手伝い（大きなごみ出し・高所の電球換え・庭掃除 等）」「家事の手伝い（掃除洗濯・日常のごみ出し・料理 等）」「外出の付き添いや送迎（買い物・通院 等）」「見守り」「子どもの預かりや保育所等への送迎」「子どものスポーツや遊びの相手」が入っている。

※「見守り」は手助けしてもらいたいことの「自宅等での短時間の付き添い」手助けできることの「高齢者や障害のある方等に対する短時間の付き添い」を当てている。

(1) 全体



手助けしてもらいたいこと・できることを「その他」「特になし」を除き偏差値にて年齢・世帯構成別に表すと下表のとおりとなった。

※「見守り」は手助けしてもらいたいことの「自宅等での短時間の付き添い」手助けできることの「高齢者や障害のある方等に対する短時間の付き添い」を当てている。

### (2) 年齢

	20歳代以下 (n=67)		30歳代 (n=82)		40歳代 (n=152)		50歳代 (n=165)		60～64歳 (n=76)	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
話し相手や相談相手	59.8	48.7	53.1	51.4	55.1	47.9	53.6	50.0	54.7	50.7
声かけや安否確認	64.5	55.9	63.4	59.1	67.9	56.2	69.0	60.0	67.6	63.4
力仕事の手伝い	49.2	46.3	46.9	43.6	48.4	44.0	47.5	45.9	46.2	47.3
家事の手伝い	41.0	42.6	42.1	42.7	42.3	43.0	42.9	43.4	44.3	42.6
外出の付き添いや送迎	39.8	41.4	40.5	41.8	40.6	43.0	42.6	43.4	43.6	42.6
見守り	43.2	42.6	42.9	41.8	42.7	43.5	43.2	43.4	43.6	41.5
子どもの預かりや保育所等への送迎	43.2	43.8	43.7	43.6	43.3	44.4	43.2	43.0	41.7	42.6
子どものスポーツや遊びの相手	45.6	46.3	47.6	47.5	43.6	46.9	42.6	43.0	42.4	43.8
犯罪防止活動	46.8	59.6	48.4	56.1	49.7	56.7	49.1	55.1	48.2	55.3
災害時の手助け	66.9	72.9	71.3	72.4	66.2	74.4	66.3	72.9	67.6	70.3
	65～74歳 (n=213)		75歳以上 (n=183)							
	A	B	A	B						
話し相手や相談相手	58.5	53.6	65.4	58.5						
声かけや安否確認	73.1	64.5	71.3	66.4						
力仕事の手伝い	49.3	48.1	47.4	55.8						
家事の手伝い	43.6	43.1	44.8	45.3						
外出の付き添いや送迎	44.5	43.1	44.0	42.1						
見守り	44.8	42.1	46.2	40.0						
子どもの預かりや保育所等への送迎	42.1	41.6	42.5	39.6						
子どものスポーツや遊びの相手	41.3	42.1	42.5	39.6						
犯罪防止活動	46.2	52.5	45.9	51.7						
災害時の手助け	56.7	69.4	49.9	61.1						

### (3) 世帯構成

	一人暮らし (n=134)		夫婦のみ (n=278)		二世帯 (n=440)		三世帯 (n=56)		その他 (n=32)	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
話し相手や相談相手	56.3	51.0	59.0	53.0	57.3	52.6	56.0	49.0	64.2	48.1
声かけや安否確認	73.3	65.9	71.3	62.1	69.1	59.7	67.9	63.9	64.2	59.0
力仕事の手伝い	47.8	51.6	46.6	47.9	48.3	46.4	46.9	43.7	53.8	50.8
家事の手伝い	43.5	44.1	43.2	43.9	42.4	42.4	44.2	43.7	43.3	42.7
外出の付き添いや送迎	44.9	42.8	43.0	43.2	41.1	41.8	43.2	42.7	43.3	42.7
見守り	44.9	42.1	44.8	41.5	42.7	42.0	44.2	42.7	43.3	42.7
子どもの預かりや保育所等への送迎	42.6	41.4	42.1	41.5	43.1	42.8	40.5	42.7	41.2	42.7
子どものスポーツや遊びの相手	42.6	41.4	42.6	42.2	43.3	44.8	41.5	43.7	41.2	42.7
犯罪防止活動	44.9	51.0	47.0	54.0	48.6	55.6	49.6	59.7	43.3	56.2
災害時の手助け	59.1	68.6	60.4	70.9	64.0	72.0	66.1	68.2	62.1	72.5

※A：手助けできること B：手助けしてほしいこと

手助けは難しいが手助けを望むこと
  手助けをできるし手助けを望むこと  
 手助けが難しく手助けも望まないこと
  手助けはできるが手助けを望まないこと

## 4. 地域活動について

問13(1) 長崎市では、現在、次のような団体が各地域で活動しています。あなたは、これらの活動に参加していますか。【〇はあてはまるものすべて】

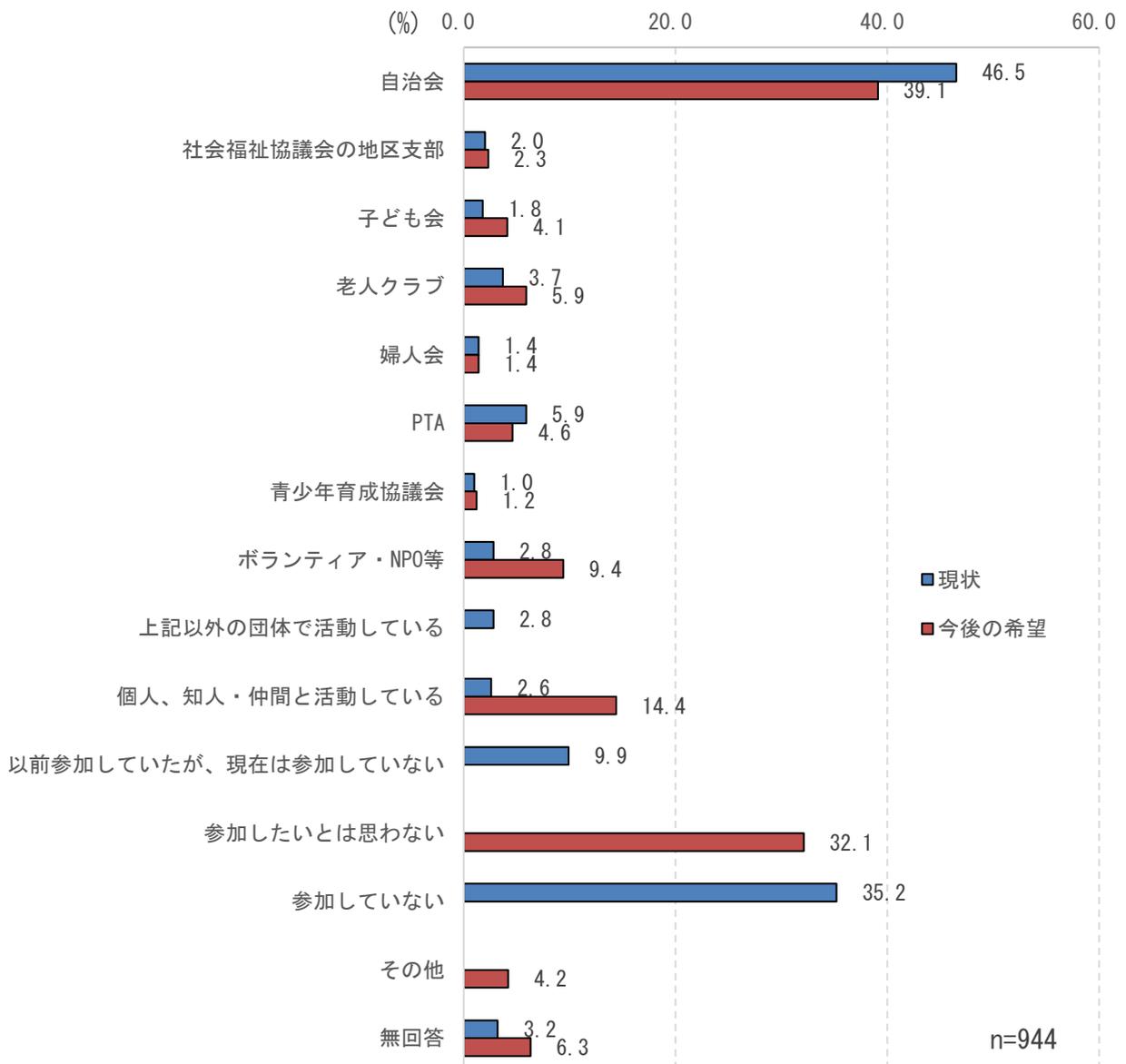
参加している活動は「自治会」が46.5%で最も多く、次いで「PTA」が5.9%、「老人クラブ」が3.7%と続いており、「参加していない」の35.2%と「以前参加していたが、現在は参加していない」の9.9%と無回答の3.2%をあわせた48.3%が現在活動に参加していないということになり、これを差し引くと、何らかの活動に参加している人は51.7%となる。

問14 あなたは、今後、次のような地域での活動に参加したいと思いますか。(現在、活動に参加している方は、今後も続けていきたいと考える項目にも〇を付けてください。)

【〇はあてはまるものすべて】

今後参加したい活動は「自治会」が39.1%で最も多く、次いで「個人、知人・仲間と活動したい」が14.4%、「ボランティア・NPO等」が9.4%と続いている。

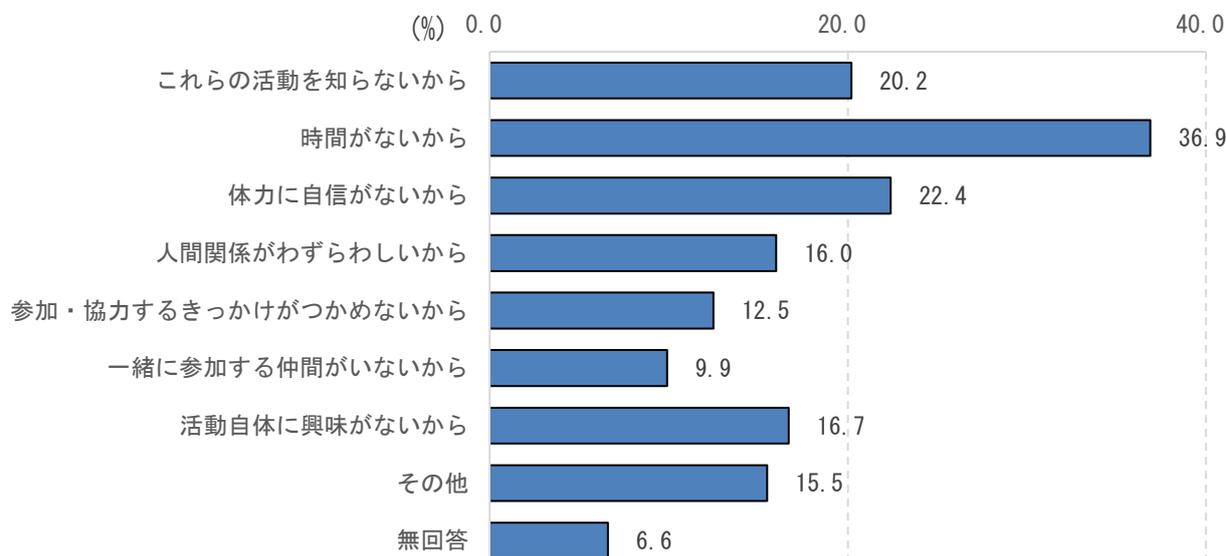
一方、「参加したいとは思わない」は32.1%となっており、無回答の6.3%をあわせた38.4%を差し引くと、今後何らかの活動に参加したい(続けていきたい)人は61.6%となる。



問13 (2) [(1)で、11. 以前参加していたが、現在は参加していない、12. 参加していないと答えた方にお聞きします]

その理由は何ですか。【〇はあてはまるものすべて】

活動に参加していない理由は「時間がないから」が36.9%で最も多く、次いで「体力に自信がないから」が22.4%、「これらの活動を知らないから」が20.2%と続いている。

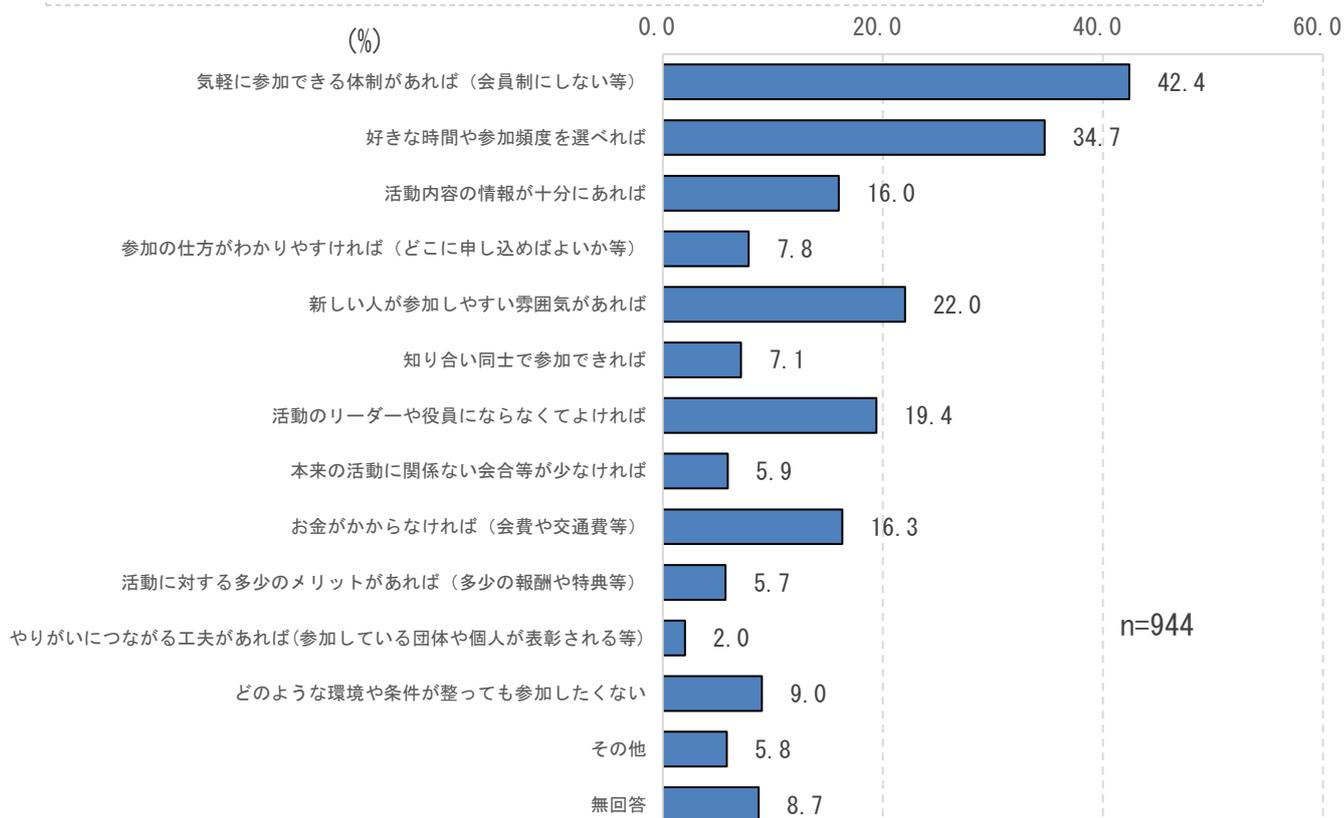


n=425

問15 どのような環境や条件があれば、地域の活動に参加しやすいと思いますか。

【〇はあてはまるもの3つまで】

どのような環境や条件があれば、地域の活動に参加しやすいかは「気軽に参加できる体制があれば（会員制にしない等）」が42.4%で最も多く、次いで「好きな時間や参加頻度を選べれば」が34.7%、「新しい人が参加しやすい雰囲気があれば」が22.0%と続いている。一方、「どのような環境や条件が整っても参加したくない」は9.0%となっている。

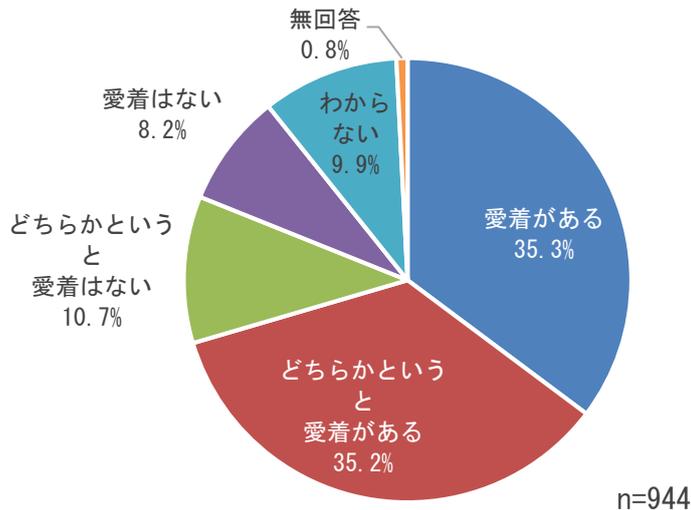


n=944

## 5. お住まいの地域について

問16(1) あなたは、お住まいの地域に愛着がありますか。【〇は1つまで】

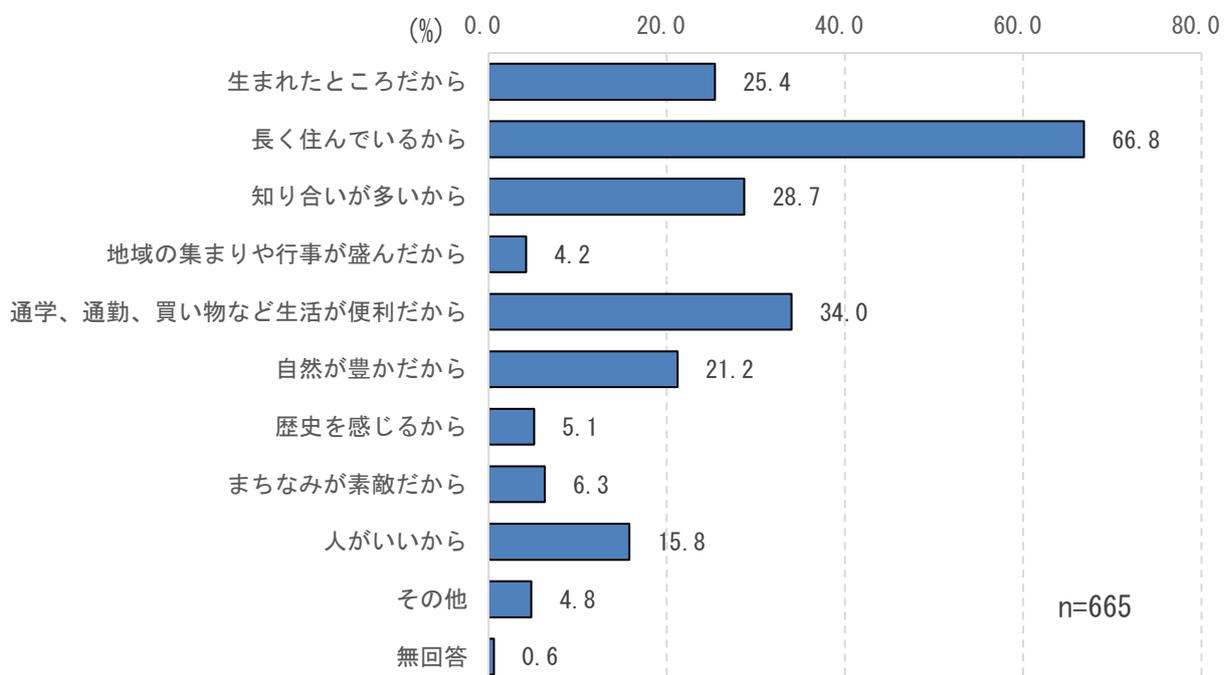
全体では「愛着がある」が35.3%で最も多く、次いで「どちらかというとな愛着がある」が35.2%、「どちらかというとな愛着はない」10.7%と続いており、「愛着を持っている（「愛着がある」+「どちらかというとな愛着がある」）」と回答したのは70.5%であった。



問16(2) [(1)で、1. 愛着がある、2. どちらかというとな愛着がある、と答えた方にお聞きします]

その理由は何ですか。【〇はあてはまるものすべて】

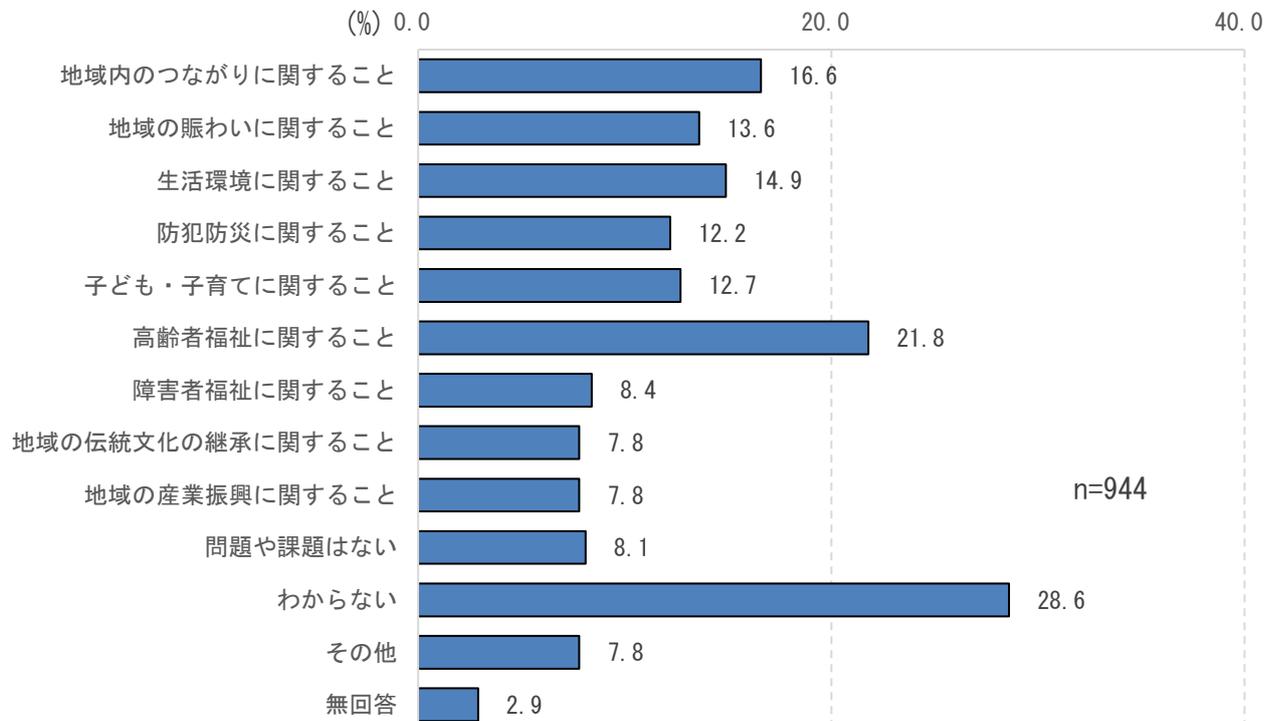
「愛着を持っている」理由は「長く住んでいるから」が66.8%で最も多く、次いで「通学、通勤、買い物など生活が便利だから」が34.0%、「知り合いが多いから」が28.7%で続いている。



問17 あなたが住んでいる地域には、どのような問題や課題がありますか。

【〇はあてはまるものすべて】

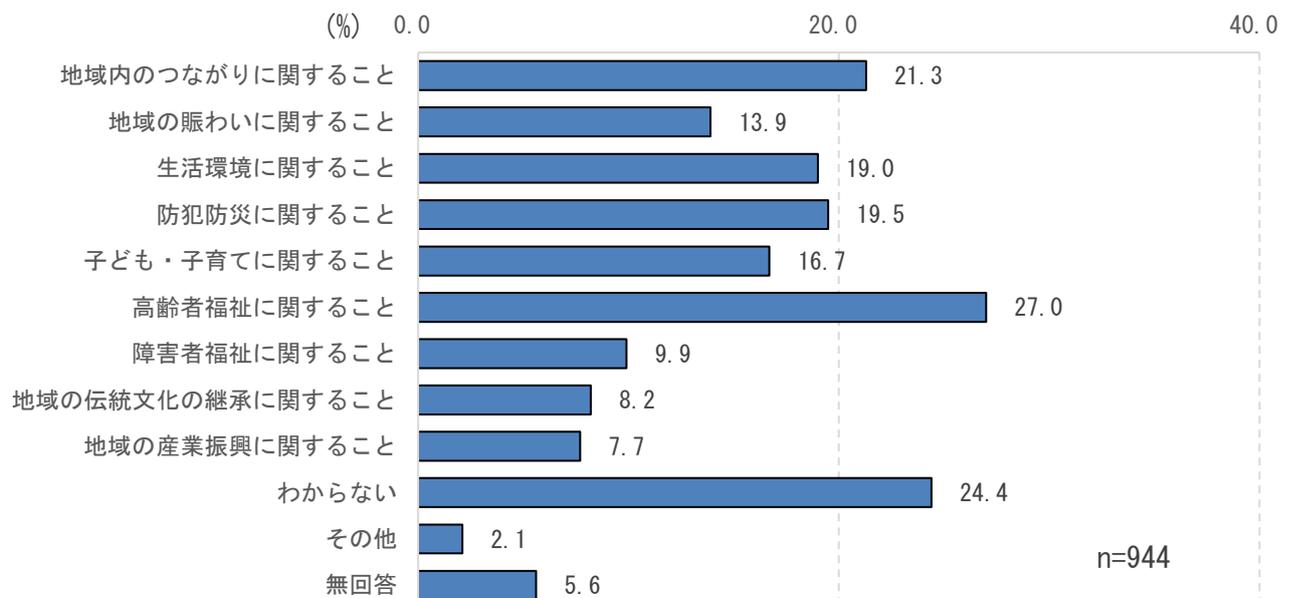
住んでいる地域の問題や課題は「高齢者福祉に関すること」が21.8%で最も多く、次いで「地域内のつながりに関すること」が16.6%、「生活環境に関すること」が14.9%が続いている。一方、「わからない」が28.6%、「課題や問題はない」が8.1%となっている。



問18 問17のような問題や課題の中で、優先して解決に力を入れていくべきことはどれだと思いますか。(1) 地域として、(2) 行政として、優先すべきだと思うことについて、それぞれお答えください。【〇はそれぞれ3つまで】

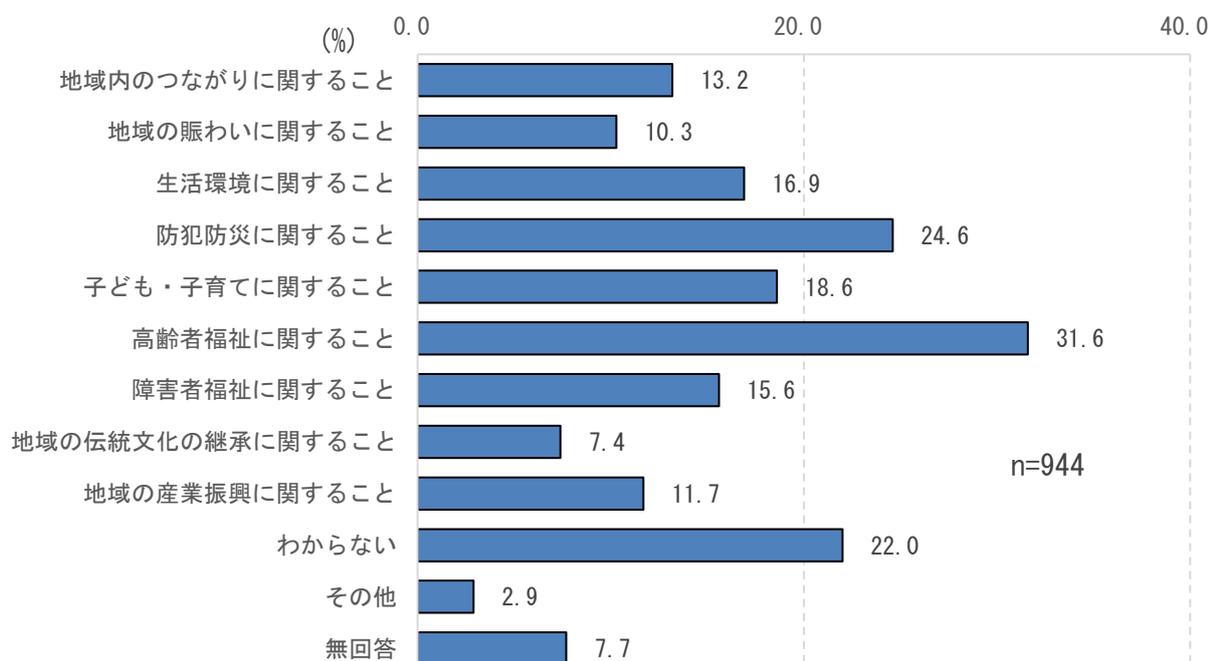
【(1) 地域として】

住んでいる地域の問題や課題で地域として優先して解決に力を入れていくことは「高齢者福祉に関すること」が27.0%で最も多く、次いで「地域内のつながりに関すること」が21.3%、「防犯防災に関すること」が19.5%で続いている。  
一方、「わからない」が24.4%となっている。



【(2) 行政として】

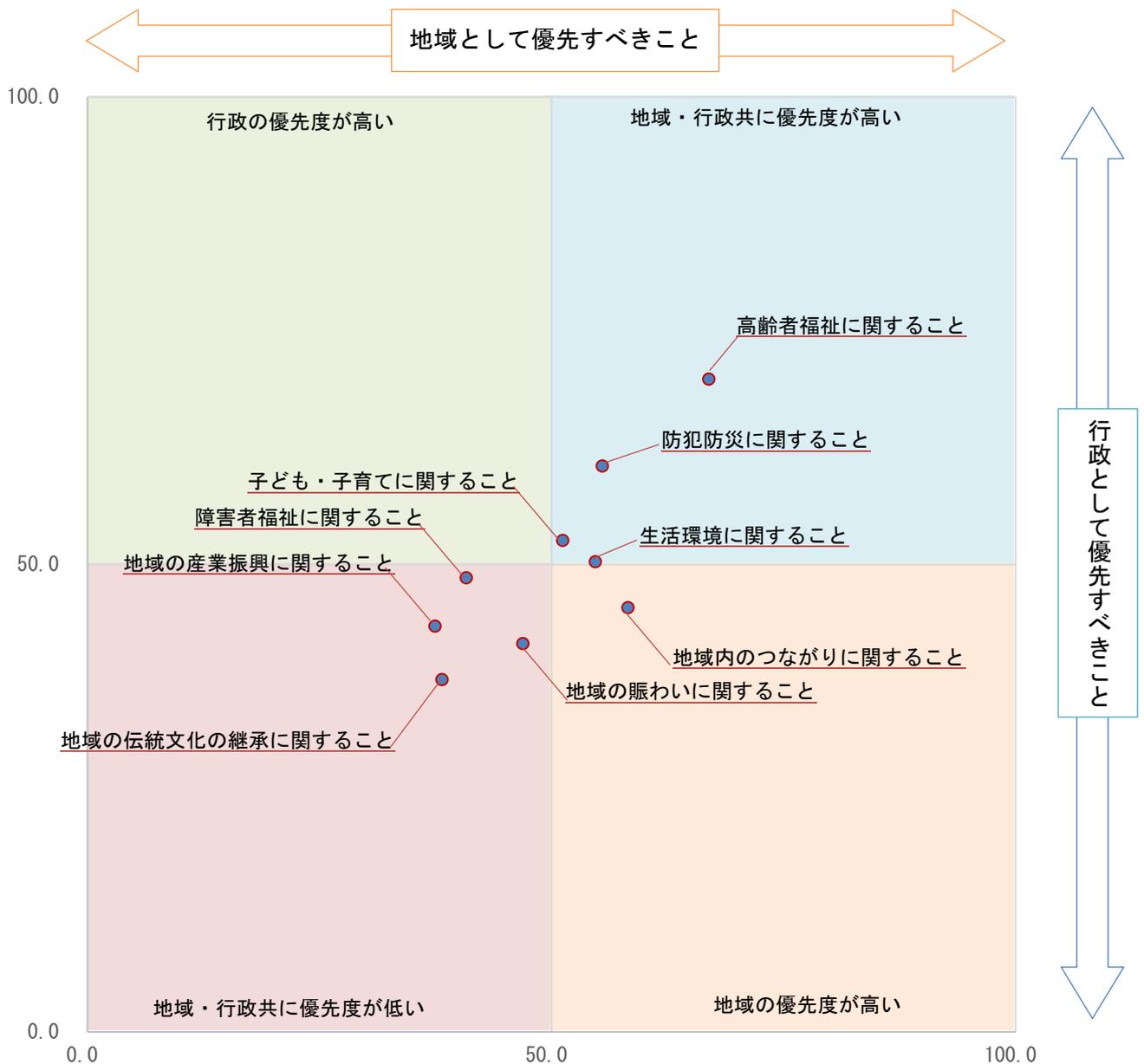
住んでいる地域の問題や課題で行政として優先して解決に力を入れていくことは「高齢者福祉に関すること」が31.6%で最も多く、次いで「防犯防災に関すること」が24.6%、「子ども・子育てに関すること」が18.6%で続いている。  
一方、「わからない」が22.0%となっている。



【地域として優先すべきこと・行政として優先すべきこと】

地域として優先すべきこと・行政として優先すべきことを「その他」「わからない」を除き偏差値にて図に表すと下記のとおりとなった。「地域・行政共に優先度が高い」分野に「高齢者福祉に関すること」「防犯防災に関すること」「生活環境に関すること」「子ども・子育てに関すること」が入り、「地域の優先度が高い」では「地域内のつながりに関すること」が入っている。また、「地域・行政共に優先度が低い」分野に「地域の産業振興に関すること」「地域の伝統文化の継承に関すること」「障害者福祉に関すること」「地域の賑わいに関すること」が入っている。

(1) 全体



問19 長崎市では、現在、地域の力を集めるしくみとして、概ね小学校区の範囲で、自治会をはじめ各種団体が構成する「地域コミュニティ連絡協議会」の設立を地域にご提案しています。

これは、今後さらに多様化・複雑化していく地域課題に対応するため、自分たちの地域に必要なことを「地域で決めて、地域で実行する（地域自治）」姿を目指し、長崎市も地域と協働・連携して、課題解決に取り組んでいこうというものです。

あなたは、この「地域コミュニティ連絡協議会」について知っていますか。

【〇は1つだけ】

全体では「聞いたこともなく、まったく知らない」が56.5%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが、あまり知らない」が30.8%、「ある程度知っている」7.3%と続いており、理解度（「よく知っている」+「ある程度知っている」）は9.0%、認知度（「よく知っている」+「ある程度知っている」+「聞いたことはあるが、あまり知らない」）は39.8%であった。

